

# 今後の教育データの利活用に向けた 展望について

---

令和8年3月11日

戸田市教育政策シンクタンク  
第9回アドバイザリーボード

# 第8回の振り返りと進捗報告

---

## 教育総合DBの 目指すところ

- 児童生徒に関する様々な事象について、職員室全体で共通認識をもち、**組織的なプッシュ型支援・見届けの質を高める**ことで、**誰一人取り残されない教育を実現する**。（学校としての組織的対応）
- **データの蓄積が小学校間・中学校間で分断されないように**することで、子供一人ひとりに対して、戸田市の教育として9年間一貫した対応を可能とする。（市全体での組織的対応）
- 教職員個人として、学校として、市教委として、**データの蓄積**を通じてグッドプラクティスの発見・開発を行い、よりよい教育・支援につなげる。（EIPP）

目的はあくまで誰  
1人取り残されな  
い教育、EIPPの  
実現で変わらない

## “普段使い” に向けての 3つの方向性

### ① 日々のメモや情報を入力し、記録できる“普段使い”のツールに

- 生徒指導教育相談情報を中心に定性的な記録も含めて、記録し、蓄積できるツールに改善。
- ②の校内委員会のユースケースにあわせた記録と表示機能の改善

### ② 各種委員会における多層型支援とデータベース活用の一体的な導入

- 既存業務の中でのデータベースの**具体的な活用場面として各種委員会（生徒指導・教育相談）を想定**。
- 多層型支援を前提としつつ、データベースを活用した校内委員会のあり方について**具体的なユースケースを提示**。
- **各学校の主幹教諭（又は教務主任）及び生徒指導・教育相談の担当を具体的な推進役とし、市教委が丁寧に伴走支援**。
- 業務改善と的確な指導支援の両方を旨として導入を開始していく。

### ③ 個人情報保護法を踏まえた適切な対応を行うための検討

- データ利活用ガイドラインに基づく適切な対応の提示とサポート

# 第8回の振り返り **これまでの**生徒指導委員会、教育相談委員会等の運用

- 一般的に、学校には校内組織として生徒指導委員会、教育相談委員会を設けており、定期的に会議を開き、問題行動や支援・配慮を要する児童生徒への対応について情報共有、支援方策の検討を行っている。
- 市内の小学校では月1回、中学校では週1回程度設けている。

## 情報共有・適切な対応に係る課題

- ✓ 協議の対象となる児童生徒の人数が多く、一人ひとりに時間を使うことができない。また、時間が限られていることから、主に報告の内容が多く、対応策の検討等にはあまり時間を割くことができない
- ✓ 協議の対象となる児童生徒については担任の情報をもとにし、学年単位で止まる情報もある。

## 会議内容の記録保存に係る課題

- ✓ 口頭ベースの共有が多い。また、記録媒体は各校独自のフォーマット（エクセルやパワポ）を使用している。

児童生徒についての必要な情報が一元化され、記録媒体の標準化とシステム化を行うメリットは大きい。

各教師の気づき・把握

学年単位で共有、ファイル入力

生徒指導委員会等で検討

具体的な指導支援の実施



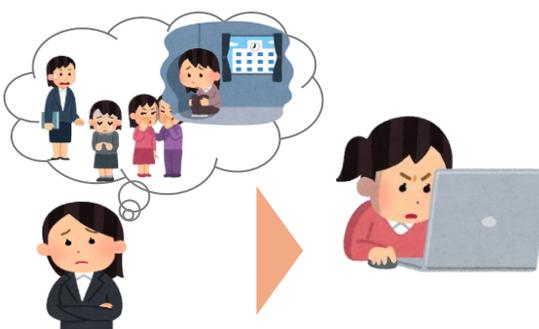
校内委員会における多層型支援とデータベース活用の一体的な導入によりデータベースの“普段使い”を進める

**5** チーム指導支援の結果を確認し、改善を検討

- 次の校内委員会で結果を共有しつつ、改善方策を検討。



**1** 日々の情報を記録、蓄積するツール



- 日々の気づきや把握した情報を入力できるデータベース。
- 個人メモ扱いではなく、入力した情報は校内で組織的に共有。

**4** 校内委員会の検討をもとにチーム指導支援

- 校内委員会での検討結果をもとにした具体的な働きかけ、指導支援を行う。
- その結果についても入力可能に。

**2** 校内では管理職も含め入力した情報は即共有

- 管理職や学年の担当はデータベースを参照しつつ、校内委員会の調整や法に沿った対応、関係機関との連携の可否を判断。
- 口頭での共有も含む丁寧な状況把握。




**3** 多層型支援の考え方に基く校内委員会

- 多層型支援の考え方に基く校内委員会用のフォーマットをデータベースに提示。
- 校内委員会では状況の共有、確認に限らず、具体的な指導支援方策を検討、「何を目標に、誰が、どこで、どのような支援を、いつ行うか」などを検討し、データベースに記入、蓄積

入力された情報はデータベースに蓄積され、関係機関との連携の可否を判断。

具体的な指導支援方策を検討し、データベースに記入、蓄積

前回のアドバイザーボードで教育総合DB（議題①）についていただいた御助言①

外部アドバイザー	御助言
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶現場の先生がデータを使うことに戸惑うのは自然である。<b>使うことでメリットがある</b>という追加情報の提供や法律の下で安全に使われているという啓蒙が必要</li> <li>▶<b>成功事例（ユースケース）</b>の蓄積が重要</li> </ul>
木村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶単に紙をデジタル化しただけでは、先生は「プラスアルファ」を感じない。不登校予測など、<b>デジタルだからこそできる明確なメリット</b>（AI活用等）を提示しないと動かないのではないかと</li> </ul>
野口委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶記録すること自体にハードルがある場合、先生にとって「<b>記録してよかった（指導の引き出しが増えた）</b>」と思える<b>体験</b>の設計が必要</li> <li>▶客観的データだけでなく、「子供の意思・願い」も反映させるべき。また、通級指導教室や日本語指導等の担当者と担任が情報を共有し、切れ目のない支援を行うためのツールとして有効</li> </ul>
小美野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶「個人の手控えメモ」と「公文書（データベース）」の区別を明確にすべき。すべてをデータベースに乗せると<b>情報公開請求等の対象</b>になり得るため、住み分けが必要</li> </ul>
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶業務負担が軽減したか、<b>子供に効果があったかの検証（効果検証）</b>を忘れてはいけない</li> </ul>
益川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶<b>情報を共有する</b>ことで、特定の先生が抱え込まず「チーム」で子供に対応できる点が強みとなる</li> </ul>
未富委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶<b>新しい教育用語（ビッグアイデア等）</b>や高度な実践の中で、初任者育成はどうしているか</li> </ul>

教育総合データベースの構築により、以下のことが実現した。

## 議事録機能追加に係る検証

■ 事実の共有が会議のメインとなるのではなく、具体的な対応内容の検討できるよう、またその後の経過共有やフォローアップが適切に行うことができるような議事録機能にする。

議事録機能の追加

サポートファイル (速度改善案+議事録追加)

生徒指導記録 97 保護者記録 144 専門員記録 2 ばれっと記録 223 サポートMTG記録 20 支援ファイル 77 議事録 7

年度 2025 ✓

リセット

生徒管理コード ⓘ

氏名 ⓘ

学年 ⓘ

組 ⓘ

番号 ⓘ

生徒管理コードをクリックして入力してください。

👤 生徒指導記録

入力フォーム

# 一部学校で使用している議事録の追加機能（ダッシュボード）

## ○ 議事録機能の追加に向けた各校からのヒアリング及び機能改善

生徒指導記録 0 保護者記録 0 専門員記録 0 ぱれっと記録 0 サポートMTG記録 0 支援ファイル 議事録 0

年度 2025 リセット

生徒管理コード  氏名   学年 6  組  番号

### 🕒 議事録 一覧

入力年月日 2026/03/02   案件名

現状/実態 選択してください

現状/実態の  
具体 入力してください

対応カテゴリ 選択してください   担当者   対応期限 年/月/日

具体的な  
対応内容 入力してください

次回  
フォロー 入力してください

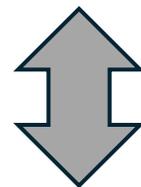
追加

## 【トライアル校より】

- ・会議の質的向上のためにより使いやすいダッシュボードがほしい。
- ・記憶を頼りに口頭ベースの会議が進んでいる。
- ・前回の会議内容が即座に共有できるといい。



## 【教育委員会】



## ヒアリングとフィードバック

■データを一覧化することはできた。

- ・データの蓄積による経年変化等の分析・検証したものが方策の資料として学校現場において活用されるようにしたい。
- ・日々の会議の中で活用されたり、注目すべき情報や示唆が得られたりすることで、児童生徒の支援に活用されるようにしたい。



## 議事録機能の追加に係る検証

■議事録として必要な項目

- ・入力年月日
- ・現状／実態
- ・現状／実態の具体
- ・対応カテゴリー／担当者／対応期限
- ・具体的な対応内容
- ・次回フォロー

## 【今まで】情報共有の時間

### 【学校(校内委員会)】

資料作成



### 【教育委員会】

■ 校内委員会におけるデータベース活用のユースケースを提示しつつ、試験的運用の伴走支援をする。

資料配布 → 資料の読み込み・参考資料確認 → 意見交換 → **対応・支援策検討**

## 【現在】対応を考察・検討する時間へ

### 【学校(校内委員会)】

資料共有



支援策①  
支援策②  
支援策③...  
SCの記録を見ると...

### 【教育委員会】

■ 継続して、ヒアリングを通じてフィードバックをもらい改修・更新を検討していく。

内容確認 → 意見交換 → **対応・支援策検討**  
議事録の活用により、対応を考察・検討する時間が確保できている

## 【教育データを活用することで】

- ・誰が、どんな対応を、いつまでやるのかが明確になり、組織的支援ができるようになる。
- ・児童生徒の変化に迅速に気付くことができ、学級担任だけでなく担任外の先生等も同じ情報をもとに望ましい関わり方ができるようになる。

**来年度に向けて**

**情報のハブとして学校の普段使いにつながる追加開発**

- 本市では、Google Cloud Platformを活用して、自前でデータベースを構築。拡張性が高く、学校現場の意見を聴きながらアジャイルで開発に取り組むことが可能。
- 一方で、データ更新では、クレンジング、ID突合、データ変換などを市教委職員や委託事業者の手作業になっており、更新頻度に限界。
- 年度更新時には、児童生徒名簿、教員名簿を確定させるため、各学校及び市教委において細かな確認、修正が発生。



今後のシステムの拡張やAIの活用も視野に入れた際、システムの裏側の安定性や柔軟性の改善は必須

名簿、ID管理の手作業は最小限にしつつ、データの完全性を確保する追加開発を実施



- これまでの定量的なデータのダッシュボードに加え、校内委員会等で活用できるフォーマットや議事録機能を追加、運用可能に。
- さらに教職員の普段使いにつながるよう上記に加え、教職員個人が日々の教育活動を行う中で、組織として共有すべき児童生徒の気づきや面談記録の入力を可能にする。
- データベースの追加開発とあわせてユースケースの提示等を通じて学校が具体的に活用できるまで伴走支援が必要。



定量的なデータと定性的な記録をダッシュボードで児童生徒ごとに表示可能にしていく。

タイムライン形式での表示やタグ付け、全文検索などのUIを高め直感的に使えるダッシュボードに。

先行して取り組む学校でのユースケースの実践を通じて、改善点等を把握しつつ、どの学校でも取り組めるよう伴走支援。



- データベースには、各学校の様々な情報が一元化されており、データベースを活用して各学校が自校の状況を把握したり、課題解決につながる方策を検討するための分析基盤としての活用が見込める。
- しかしながら、各学校が分析等を行うための必要な機能やインターフェイスの追加は行っていない。また、実際にデータベースを分析基盤として活用している実践もまだない。



データパイプラインを構築し、これまで一部手作業も含まれていたデータのBig Queryへのロードを自動化

分析可能なように匿名加工処理や分析用のテーブルの設計・構築、レポート作成なども可能な仕様に。

あわせて、共同研究等を通じて分析に必要な知見を得つつ、学校現場レベルでのEIPPの実践を進める。

データをきれいに整備しておくことで、将来的には、現場の教職員がAIの力を借りながら自らの手で集計・分析を行うことができるような環境を整えたい。